

台湾国立宜蘭大学 短期留学プログラム



8/22

両校交流キック
オフミーティング
(研究紹介・自己紹介)



研究室見学
(バイテク、食品、
ドローン・ロボット、
森林)



レジャー農業体験
(茶生産者：祥語有機農業)



夜間山林生態
見学ツアー
(三富農場)



8/23

レジャー農業体験②
(ネギ生産者：蔥仔寮)



大同郷泰雅族原住民生活館見学



8/24

<自由見学>

九份観光
「千と千尋の神隠し」のモデルとして有名。
日本の夏祭りのような雰囲気、屋台が
立ち並ぶ

↓ 台湾地下街の日本製グッズ販売店



↑ パートナーと一緒に撮影

↓ 台湾は外食文化が発達。種類や量も豊富!



派遣学生は宜蘭大学学生パートナーとともに、それぞれのプランで台北を見学

8/25

国立伝統芸術センター
各種テーマパーク訪問

8/26

龜山島見学(観光船)
(イルカウォッチングなど)
蘭陽博物館見学
大学構内で活動報告
(宜蘭大学パートナーとともに
プレゼンテーション)

宜蘭大学との交流

●研究室見学●

・スマートフォンのsiriで話しかけることで動く人型ロボットに圧倒。その他湿度、気温、日射量等、植物が生育するために必要な条件を自動的にコントロールできるハウスを見せていただいた。(町田)

・ロボティクス分野ではドローンの操縦、画像処理を用いた自立走行、音声認識によるロボット制御実演を見ることができた。(橋本)
・音声認識ロボットや、タブレット操作ドローンの性能の高さに驚いた。これらは農工連携を必要とする場で役立つものだと思った。(早川)

●夜間山林生態見学

・カエルが巨大で独特の鳴き声。(早川)
・蚊が卵を産む場所を、あえて人間が作ることで発生場所を限定し、蚊の卵を食す魚をその池に放す等、生態系をうまく使った蚊発生抑制の方法に驚いた。日本でも活用できそうだ。(松淵)

●宜蘭大学の学生●

日本語を流暢に話せる人が多いことに非常に驚いた。(小林)
日本語を、日本のアニメ、ドラマ等で独学で学んだ学生が多い。
サポーターの学生は皆優しく接してくれたので、留学中はずっと心強かった。(佐々木)
私の宜蘭大学のサポーター学生は、二人とも中国と英語の他に、日本語も話せた。(奥田)

台湾の農業

●レジャー農業体験より●

・日本ほど後継者不足や農業就業者不足が深刻でないため、作業効率化を図る機械導入は、あまり必要とされておらず、台湾の農業は機械化が進んでいない。乾燥した茶葉を荒葉に仕上げの工程も、ネギ洗いもすべて手作業だった。

また、農園で体験した茶葉の菓子を食べてもらい、その人が帰国してから、またその菓子を購入したくなるようなビジネスの仕組が面白い。(佐々木)

・レジャー農業は、ネギ農園で収穫体験後にそのまま料理をして試食したり、茶葉を収穫後すぐ乾燥作業をして試飲したり、持ち帰りもできるので、とても楽しかった。(小林)

・農業はつらくつまらないイメージがあったが、収穫から加工処理までの過程がとても楽しく、農業のイメージが覆った。老後はレジャー農業を経営したいと思った。(町田)

・道端にたくさんのフルーツの樹木が生えている(松淵)

・農業について考える機会が少ない工学系専攻の私にとって、この体験は、農工連携を考えるよい機会となった。(奥田)

・日本では農業の担い手不足が深刻だが、台湾では農業を選ぶ若者も多いと感じた。(早川)

台湾の文化

●台湾の食文化●

・台湾ではスーパーマーケットや屋台で食事を摂った方がコスト面でも安いので、外食文化が発達している。賃貸住宅の場合、キッチンがない物件もあるようだ。留学期間中は毎食外で食べた。(佐々木)

・食事は日本人の口に合う美味しいものが多く、果物も豊富に売られている。屋台がならぶ夜市では安い値段でたくさんの料理が売られている。(早川)

・台湾の人は、とにかくたくさん食べる。日本では料理により皿を変えるが、台湾では皿は1枚を使い回し、料理のたびに変えない。朝ご飯に便利な、たくさんの具材を一緒に入れるおにぎりはとても美味。(松淵)

・風土に合わせた外食メニューが豊富なので、特産のネギ入りが多い。(小林)

・料理は円卓で大皿にのった料理を皆で取り分ける。食べ物が残っていても店員が次々料理を入れ替えるのは疑問。(奥田)

●台湾は多民族社会●

台湾は多くの民族がいて、それぞれの民族で衣装や祭りが数多く存在。日本の楽器や家屋の展示物や日本人建築士の建物もあり、とても身近に感じた。(早川)

台湾と日本

・親日派が多く、台湾の人々は流暢に日本語を話す。基本的に中国語や英語使用だと思っていたら、パートナーの学生の約半分は、会話も文章も巧みな日本語を用いていた。

日本語のアニメが好きで、独学で覚えた学生が多い。日本でおなじみのファーストフード、コンビニがそこかしこにあり、車やバイクも日本製が多い。広告には「安心の日本製」を掲げている。(小林)
・台北に日本のアニメや映画の広告がたくさんあった。日本文化が台湾に広がり、人気を集めていると聞き、日本文化の素晴らしさを実感した。(橋本)

・日本商品が、日本人が台湾で生活しても困らないほどにあふれている。化粧品やお菓子の半分くらいは日本製。日本人は台湾人に比べて、トイレの衛生面や食物が触れる部分への除菌等について、神経質すぎるのがわかった。

宜蘭の学生は台湾をよく知っていて詳しく説明してくれたのに、逆に質問されたとき説明できず、日本の歴史についての知識の乏しさを感じた。日本を客観的に見つめるよい機会となった。(佐々木)

・日本人をとてりムスペクトしており、日本のことを色々尋ねてくれたのに、答えられない場面があり、幅広く自国日本や秋田について説明できるようにしたいと思った。(小林)

◆ 留学参加学生 ◆

小林洗瑠(電子3年)・橋本真澄(院・機械1年)・奥田優樹(院・電子2年)
町田大和(応用3年)・佐々木南帆・早川修平・松淵優子(生産3年)

◆ 引率教員 ◆

藤 晋一 教授(生産) / 山本聡史 准教授(アグリ)